

第1回 第3給食センター（仮称）整備計画検討委員会 議事録

1 開催概況

- (1) 日 時：平成29年4月28日（金） 10:00～11:30
- (2) 場 所：教育委員会会議室（市役所11階）
- (3) 出席委員：片桐委員長，西方副委員長，尾崎委員，水木委員，佐々木委員，櫻木委員，松本委員，稲田委員，青木委員（以上9名）
- (4) 傍聴者数：6名

2 議事録（要旨）

(1) 議題1. 委員長，副委員長の選任について

片桐委員が委員長に，西方委員が副委員長に選出された。

(2) 議題2. 委員会細目の制定について

実施の細目について，事務局案のとおりとすることが決定された。

(3) 議題3. 福岡市の学校給食及び給食センター再整備事業概要について

配付資料に基づいて事務局から説明があり，委員から次の質問が出された。

(委員) PFI方式（BTO）について，詳しく教えてもらえないか。

(事務局) 従来方式に比べてPFI方式では，施設の設計から建設，維持管理，運営まで一括して民間事業者へ委託するため，民間事業者が持つノウハウや運営能力を活用しやすくなる。また，民間が事業資金を調達し，15年間の運営事業の中で対価を支払うため，市の負担額が平準化できるメリットがある。BTO方式では，施設完成後，所有権を市に移管するため，緊急時の対応が市の主導で柔軟に行うことができる。

(4) 議題4. 検討委員会のすすめ方について

配付資料に基づいて事務局から説明があった。

(5) 議題5. 学校給食センター再整備スケジュールについて

配付資料に基づいて事務局から説明があり，委員から次の意見があった。

(委員) 平成32年8月に供用開始予定とのことだが，それに伴い学校給食公社の調理部門は廃止となる。このスケジュールを基に，転進支援などの取り組みを行っていくので，スケジュールが遅れると調理員のモチベーションにも影響があると考え。また老朽化した施設で日々調理を行っており，さまざまな苦勞もある。ぜひスケジュール通りに進めていただきたい。

(事務局) 今回提示したスケジュール通りに再整備を進めていく。

(6) 議題6. 事業予定地について

配付資料に基づいて事務局から説明があり、委員から次の質問が出された。

(委員) 2時間以内喫食ということだが、天候や交通渋滞の影響で2時間を超えてしまうことはないのか。

(事務局) 衛生管理基準に定められた努力義務である。順守できるよう最大限の努力をしている。仮に超えたとしても、十分な衛生管理のもと調理されており、安全である。

(委員) 土壌汚染など、環境的な問題が発生する可能性はあるか。

(事務局) 当該予定地については山林であり、土壌汚染の可能性は低いと考えている。

(7) 議題7. 基本仕様(案)について

配付資料に基づいて事務局から説明があり、委員から次の意見等があった。

(委員) 第1, 第2給食センターを運営している中で課題はあるか。

(事務局) 細かな調理ミス等はあるが、現状大きな支障なく運営できている。

毎月運営協議会を実施し、日々の課題や施設の点検等について、事業者と情報共有を行い、協議しながら改善すべき点は改善するようにしている。

(委員) 残滓はどれくらい出ているのか。

(事務局) 中学校は約10%発生している。小学校は約1.6%であり、小学校に比べると多いため、減らしていきたいと考えている。

(委員) 基本的な考え方について、機器トラブルなどの緊急時に給食を安定提供できる体制の構築とあるが、具体的にどのようなことを想定しているのか。

(事務局) 例えばボイラーについて、1基が停止したとしても、他の熱源で調理できるようにするなど、想定している。

(委員) 災害時の対応は非常に重要なことであると考えている。災害時の対応として、機器の維持、早期回復及びバックアップ体制が必要だが、ライフサイクルコストとの兼ね合いがあるので、どこがベストなのかを見極めることが大事である。

(事務局) 今後基準を定める中で委員会のご意見を伺っていきたい。

(委員) ドライシステムとはどのようなものか。

(事務局) 従来は調理の際に床を濡らした状態で調理等の作業をしていた。従来手法では衛生的に問題があるため、ドライシステムでは極力床を濡らさないように調理を行うこととなっている。

(委員) 新たな機能として、災害時の炊き出し支援について記載があるが、イメージがわからない。今後の検討委員会で詳細を決めていくのか。

(事務局) 細かな基準を設けることまでは考えていない。物資調達など市側でできることと、事業者側でできることを切り分けて考えることで、事業者に自由に提案してもらいたいと考えている。事業者選定の中で、事業者からの提案を期待している。

(委員) 第3給食センターの開業予定時期は、東京オリンピックの開催年であり、

建設需要が重なる懸念がある。第1及び第2給食センターと機能が共通の部分もあると思うので、不要部分、共通部分については早めに整理していくことがスケジュールどおり進めていくうえで必要である。

(事務局) 事業者に対するヒアリングの中で、オリンピックの建設需要に対する資材や人材確保等のリスクについて意見が聞かれた。当リスクも勘案の上、計画的に進めていきたい。

(8) その他

全体を通しての確認事項として、委員から次の意見があった。

(委員) 第3給食センターの稼働開始に伴い、学校給食公社の調理部門は廃止となる。調理業務員の第3給食センターでの受け入れ等今後検討いただきたい。

(事務局) 学校給食公社の調理部門廃止に伴う調理業務員の受け入れについては、重要な課題だと考えている。第3給食センターの要求水準にも盛り込んでいきたいと考えている。